

# DIGITABLE 第 43 回勉強会レポート

2011 年 3 月 19 日 於：森下文化センター 第一研修室



Digitable 基礎講座「Adobe Bridge による画像管理」：高木大輔講師

参加者全員による“ライトニングトーク”

Photoshop 研究講座「グラデーションマップ②」：平野正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

東北関東大震災の影響に鑑み、「全員参加の定例勉強会」ではなく、無理なく参加できる会員の自主参加の形で開催しました。

## Digitable 基礎講座

### 「Adobe Bridge による画像管理」：高木大輔講師

Adobe Bridge は Photoshop、InDesign や Illustrator などの Adobe CS シリーズ以降に付属する画像管理ソフトで、他の Adobe ソフトと共通で画像などのデータを共有管理できるのが最大の特徴だが、キーワード、ラベル付け、さまざまな分類と検索や、PDF や Web への出力など今後の画像管理ソフトの流れを探るためにも、Adobe Bridge の概要を見ておこう。

#### ○ワークスペース / 表示形式

写真をリストもしくはサムネールで表示したり、詳細な撮影情報を表示したり、選択した写真だけ大きく表示したり、作業目的によってさまざまな表示を選ぶことができる。

#### ■初期設定

写真の荒選りやラベル、レーティング、キーワードなどの仕分けに便利。

#### ■フィルムストリップ

写真をじっくり選択用の基本モード。ルーペ機能で見たい部分のピントがワンタッチで確認できる。

#### ■出力

コンタクトシートを作成し、PDF や Web ページに出力できる。

#### ■レビューモード

レビューモードは円卓のターンテーブルのような感覚で写真の閲覧、選択ができる。見たい部分のピントがワンタッチで確認できるルーペ機能も使いやすい。

#### ○機能説明

#### ■キーワード

撮影場所や被写体などをキーワードとして写真へ付加できる。これにより大量のフォルダの中から目的の写真をすばやく探し出せる。写真を取り込んだらすぐにキーワードパネルでチェックする習慣を身に付けるとよいだろう。



自主勉強会となったが、参加者の士気は高い



初期設定画面



レビューモード

## ■ラベル

写真のセレクト状況を色別に分類する。

## ■レーティング

レーティングもラベルと同様、写真を分類する機能の一つで、5段階の★で写真を格付け評価する。

## ■メタデータ

写真に埋め込まれている、画像データ以外の情報のことで、撮影時の日時や画像サイズなどのファイル情報、カメラの機種名や絞り値などのExif情報に加え、Bridgeでは撮影者の氏名などの個人情報、著作権者やモデルなどの様々な情報を埋め込むことが出来る。

メタデータとは膨大なデータの山の中から目的のデータを探し出す手助けとするために作成されるもので、特に、画像データなどは、そのままでは単純なキーワード検索を行うこともできず、メタデータの恩恵を大きく受ける

## ■検索

タスクバー検索ウィンドウによるキーワード検索と、更に詳しい「編集」検索メニューによる検索がある。

## ■コレクション

別々のフォルダーにある写真でも被写体別やテーマ別にまとめて保存できる、いわば仮想フォルダの機能で、ハードディスクの容量節約にもつながる。

## ■出力 (PDF ファイルや Web ページへ)

テンプレートやページあたりの掲載点数、サイズなどを指定していくだけで見栄えのいい Web ページや PDF ファイルが出来上がる。尚、Adobe Bridge 自体には直接の印刷機能はないが、作成した PDF ファイルを印刷すればよいので、実用上は特に問題はないだろう。

\*\*\*\*\*

(コメントや意見の追加をお願いします)

## 参加者全員による “ライトニングトーク”

(持ち時間 5 分のショートトーク)

今回は少人数ながら参加者の士気は高く、通常会にも負けない熱いトークが披露された。

NYさんは、地震に負けない勇気をくれる動画を披露しながら、人間の素晴らしさ、人間の記憶の87%を認識する視覚→写真の力を語ってくれた。

T講師からは、最近購入したYASHICA製のハンディ名刺スキャナーの実演。参加者の名刺をスキャンするとたちどころにテキストが検出され住所録を作成してくれる。H講師はBridgeのデータ管理の話から、急遽使用しているデータベースの話をしてくれた。興味ある方は2009年4月のレポートなども参照されるとよいだろう。

SY氏はご自身のBlogを紹介、デジタルホームページからもリンクさせていただいた。FaceBookやツイッターなどと連動して日々の研究の成果を発信する。

AYさんは、昨秋の東欧旅行であるテーマについて悩んでいるとの事だが、近々素晴らしい作品を発表いただけるだろう。

IH氏はモノクロ等のプリント比較の考察。シンプルな比較素材のおかげで、特にモノクロにおいては紙質の風合いが大きく反映されるのがよく分かった。

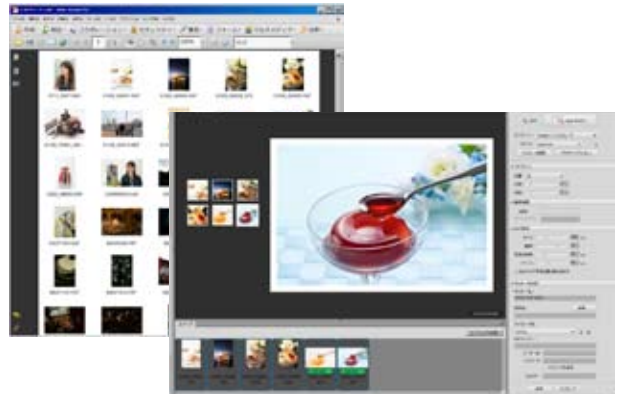
最後に新入会員のMMさんから近作のプリント披露。明暗とグラデーションに注目して撮り込んだ葉の表情が美しい。JPEGオンリーの撮影であったが、入会を機に積極的にRAWにも取り組んでいきたいとのことである。

\*\*\*\*\*

(コメントや意見の追加をお願いします)



今回も力作の「Adobe Bridge- これ1枚！」テキスト



作成したコンタクトシートと Web フォトギャラリー



## Photoshop 研究講座 平野正志 講師

### 「グラデーションマップ②」

(テキストから抜粋)

グラデーションマップで利用されるさまざまなグラデーション。カラフルなグラデーションを適応すればソラリゼーションのような効果が加えられる。ここではモノクロ写真を作るために利用する。

(中略)

選択範囲を作りマスクとして部分の調整に利用すると、グラデーションマスクでも細かな部分修正が可能で、それだけでもある程度の満足は得られそうだと感じる。

加えて白黒レイヤーで、細かなデータの調整を行えばさらに細かく調整できそうである。

とりあえず、0-255のグラデーションを与えることで、適度なコントラストが得られる点で安易にモノクロ化することが出来るのは便利と感じる。

試しに最も下に粒状を加えるなどの試みも、マスクとともに面白い効果にはなりそう。

ダブルトーン印刷と重ねるなど、さまざまな調整を加える事も可能で、印刷のための版としても透明度を調整するなど可能だろう。

グラデーションマップは明暗トーンを白黒に変更して適度なトーンカーブでコントラストを調整するように見える。色に対する調整はできないので白黒レイヤーとは一線を画す様だ。

色を扱って白黒に調整する白黒レイヤーで調整後にコントラストをトーンカーブなどで調整したものと、どう違うかも検証したい。

白黒レイヤーとグラデーションマップ、両方を使っての調整でより細かな調整が可能になりそうな予感がある。

… (後略)

(編集部注)

「グラデーションマップ」を作品づくりに生かす平野講師の考察だが、筆者は単純に露出補正の救済策(ハイライト部の調整等)に使用したりすることはある。多分に経験的な自己流の手法であるが…。

平野講師の続編に期待し、その時ついでにご紹介してご批評いただければと思っている。

\*\*\*\*\*

(コメントや意見の追加をお願いします)

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME)

<http://www.digitable.info>



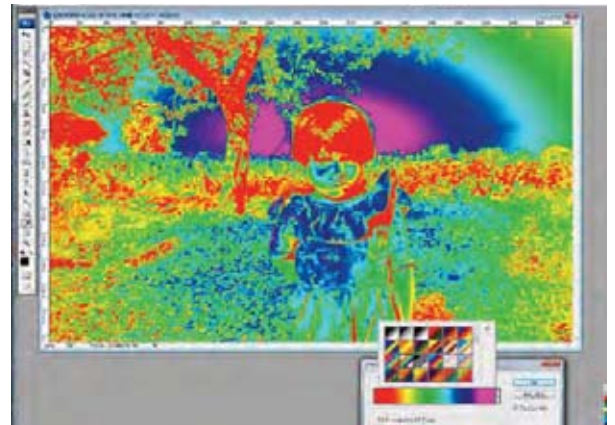
今月の1枚：(2011年3月11日撮影)

筆者仕事場4階の惨状

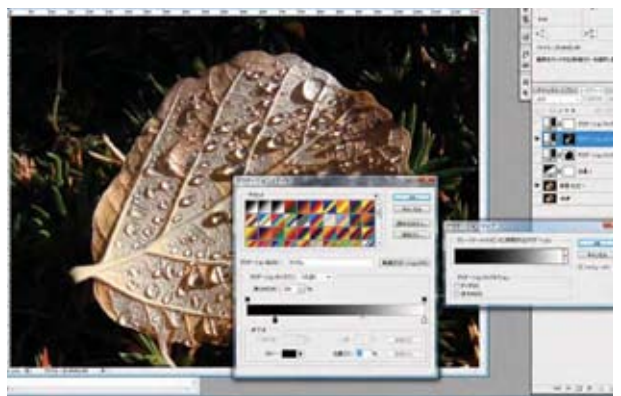
本棚はしっかり固定しておきましょう



平野正志講師の作例サンプルを囲む



基本グラデーションのほかに用意された中の虹色を選ぶとソラリゼーションのような画像となる



元画像のハイライト部分をグラデーションマップで調整し、印象的な画像に！



最後に白黒を選びカラーデータを白黒のトーンに調整する。全体のバランスを見ながら透明度などを調整